2013.6.1/Vol.69

十和田市立 新渡戸記念館だより

Nitobe Memorial Museum Newsletter

第69号

1855～2013　三本木原開拓のあゆみ

写真について詳しくは当館の展示をご覧下さい

2013年度　新渡戸記念館の活動のテーマは「農業」です

十和田市を中心とする青森県南内陸部は、古くは名馬の産地として知られながら、やませの影響による不作、凶作のため「南部けがじ」と呼ばれた飢饉に何度も苦しめられた歴史があります。幕末から昭和にかけて行われた稲生川開削と三本木原開拓によって、十和田湖・奥入瀬の水の恵みが広大な三本木原台地を潤し、藤坂5号をはじめとする米の耐冷品種の改良や農業技術向上の弛まぬ努力と近代化によって、現在は昔と比べ物にならない安定的食糧生産が可能となりました。多くの先人たちの努力により十和田市は農畜産業を基幹産業として発展し、水田面積は県内第3位、高い食料自給率を誇り、にんにくの生産量は日本一、長ネギ、ながいも、ごぼうなども生産高で上位にランキングされています。

しかし、地域の経済基盤として高い水準を保つ十和田市の農業も、担い手の高齢化、後継者不足、環境問題、ＴＰＰへの対応など、現在、日本農業全体と同様に多くの不安要素を抱えています。「文化」（culture）は耕すことを語源としますが、「食」に代表されるそれぞれの土地に息づく“生き方の形式”、人々の営みこそが「文化」であるといわれており、地域の農業の衰退は、長い歴史の中で培われた独自の地域文化が基盤を失い、活力を失うことを意味します。

新渡戸稲造は明治31年（1898）に出版した著書『農業本論』の中で、現代の農業問題を考えるにあたって傾聴に値する多くの言葉を残しています。－「農は万年を寿ぐ亀の如く、商工は千歳を祝う鶴に類す。この両者は、あいまって始めて完全なる経済の発達を見るべく、而して後、理想的国家の隆盛を来たすべきなり」（商工業と農業がともに発展することで国家の繁栄が成り立つ）「如何なる国と雖も、その食物を他国に仰ぐ間は、其の価格に如何なる変動を起こすやも計りがたきを以って、全く独立と称することを得ず。」（食料自給率が低い国は独立国と言えない）［『農業本論』より］。

農業が難しい局面を迎える今こそ、私たちは十和田市の農業を「地域の文化の礎」として歴史的に見直したいと思います。農業の六次産業化の推進が叫ばれていますが、農業で発展してきた十和田市だからこそできる付加価値の付けかたや加工率向上の知恵につながることを願っています。

稲生川の恵みで今年も田植えが行われる

新渡戸稲造著『農業本論』

明治31年（1898年）新渡戸稲造36歳の時の著述

新渡戸稲造

〈出版情報〉
明治31年（1898）裳華房（東京）で出版された新渡戸稲造36歳の時の著書。〔写真は明治34年（1901）の第四版〕

『農業本論』は明治30年（1897）新渡戸稲造が病気のため札幌農学校教務部長の職を休み群馬県伊香保で療養中にまとめたものです。日本では明治28年（1895）の日清戦争勝利の後、さらなる富国強兵策のために商工業のみを重んじ農業を軽視する風潮がありました。その社会の動きを憂慮してかかれたもので、農業の貴さを経済面、文化面、精神面にわたり様々なデータや古今東西の名著の引用などを使って論証しています。ここで主張されている「貴農論」は、現代の農業の苦しい状況において、より一層意味をもって見直されています。

EVENT　開催報告

稲生川上水155年記念 太素祭

平成25年５月３日（金）～５日（日）

［共催：㈳十和田市観光協会・十和田市・十和田商工会議所・太素顕彰会］

まつりびと「羈たづな」太鼓演奏

ＲＡＢ太素祭カラオケ大会

稲生大権現奉納

北園小学校ブラスバンド

太素ウォーク2013

稲生大権現による身固め

ニトちゃん○×クイズを出題する傳さん?と司会の中城さつきさん

境内で晴山獅子舞有志が三番叟を披露

新渡戸傳翁をはじめとする開拓の先人たちの偉業をしのぶ太素祭が行われました。上水155年にあたる今年は、５年に一度の太素行列が５月３日（金）14:00から行われ、万延元年（1860）の藩主南部利剛公開拓地視察の様子を再現しました。３日（金）17:00からの前夜祭、上水記念日５月４日（土）9:30からの太素例祭では太素塚墓前に参拝者が献花しました。例祭では昨年から２年目の稲生大権現復活奉納を、晴山獅子舞保存会（佐々木秀美会長）の皆様と、八戸おがみ神社法量神楽保存会松本徹会長の協力で行いました。３日（金）には稲生川の流路をたどる太素ウォーク2013が行われ、およそ100名の参加者が桜咲く水路沿いを歩きました。３日（金）～４日（土）のステージイベントでは、北園小学校、十和田中学校、三本木高校の吹奏楽演奏、水神雷太鼓、まつりびと羈（たづな）による太鼓演奏、十月会の琴演奏、大正琴発表のほかＲＡＢカラオケ大会、民俗芸能発表会、ものまね、演歌、マジックショーなどで盛り上りました。新渡戸記念館は、市外の方にも無料開放し、恒例のクイズ大会「ニトちゃん検定～太素行列のなぞを追え！～」とミニ展示「太素行列の歴史」、農業をテーマに「未来遺産十和田ふるさと見本市」を開催、多くの来館者で賑わいました。

５年に１度　平成25年「太素行列」を徹底解剖！

小山田久十和田市長、石川正憲十和田商工会議所会頭をはじめ、十和田市役所、十和田商工会議所、十和田商工会議所青年部、十和田市観光協会の役職員、北里大学獣医学部生などが参加。新渡戸記念館からは新渡戸常憲館長が前回同様参加し、新渡戸十次郎役を務めました。今年は中央町内会・わ組神輿、マーチングバンド・ターンバック、バラ焼きゼミナールが加わり、総勢130名の行進となりました。

ターンバック

わ組神輿

太素行列参加者のみなさん

バラ焼きゼミナール

行列の先頭

- ★先頭旗持
- ○供侍（4名）
- 奉行
- ★提灯持（2名）
- 新渡戸七郎
- ◆四天王（4名）
- 新渡戸十次郎
- ○供侍（4名）
- ■奴頭（拍子木）
- ■挟箱持（2名）
- ■供奴（2名）
- ■毛槍奴（8名）
- ◎近習（4名）
- 御家老
- ◎近習（2名）
- 南部利剛公
- 小姓　小姓
- 典医
- 茶坊主
- 納戸役
- ○供侍（4名）
- 目付
- ○供侍（6名）
- ☆元禄花見踊り（10名）

平成25年 太素行列人数 65名

先頭集団

実際の大名行列でも先頭集団は、地元受け入れ側責任者が歩くことになっており。太素行列では、現地役人と新渡戸十次郎、七郎ほか新渡戸家関係者とで構成される。

【先頭旗持】露払い役

【供侍】随行の藩士（行列全体で18名）

【奉行】藩の役職。万延元年には現地役人の七戸代官らが出役

【提灯持】暗くなった時活躍

【新渡戸七郎】十次郎の長男。傳、十次郎を補佐。

【四天王】新渡戸家を支え、開拓地を取り仕切った実在の人物たち。新渡戸家四天王。

【新渡戸十次郎】傳の長男。開拓を指揮。利剛公の視察を企画。

後方集団

【奴頭】この拍子木の合図でタイミングを合わせ奴たちの毛槍振りが行われる。

【挟箱持】大名の着替えや身の回り品を入れた箱を担ぐ。拍子木の合図で独特の動作をする。

【供奴と毛槍奴】さやに鳥の毛を付けた槍を持って歩く奴と先導する奴。左右２列に並び、独特の動作で毛槍を投げあう。

【近習】殿の身辺警護の役。親衛隊。周辺に気を配る視線が鋭い。

【御家老】家臣団最高位の役職。万延元年の視察時はその下の役職・御用人が同行。

【南部利剛公】第14代南部藩主（南部家第40代）視察当時34歳※毎年十和田市長が藩主役をつとめます

【小姓】殿の身の回りの世話係。刀持ち役も務める。

【典医】南部藩でいう御医師。万延元年に随行は無いが、大名行列に多く随行。

【茶坊主】茶道を取り仕切り、調度品を整えたりする係。実際万延元年に２人随行。

【納戸役】調度の出納，献上品，諸役への下賜金品の管理をする。万延元年も随行。

【目付】行列の監督役。万延元年も御側目付が行列を采配。

最後尾

【元禄花見踊り】上野の山の花見習俗を描くこの踊は、東京時代まつりでもお馴染み。太素行列でも毎年行列に彩を添えています。

稲生川上水155年太素祭　　地域博物館企画

未来遺産十和田　ふるさと見本市

文化の礎“農”の恵みを未来へ

米粉ロードプロジェクト

道の駅とわだ

ＪＡ十和田おいらせ

展示期間：2013年５月３日(金)～６月30日(日)
主催：十和田市立新渡戸記念館　協力：「太素の水」保全と活用連合協議会　企画・構成：Kyosokyodo（共創郷土）

太素祭初日から「未来遺産十和田　ふるさと見本市～文化の礎“農”の恵みを未来へ～（Ⅰ）」をオープンしました。2013年度の活動のテーマ「農業」について、十和田市の「今」を知り「未来」を考えるヒントにしていただくための見本市です。十和田市の農業の概要をパネルや資料でご紹介し、当地で行われている「農業活性化の取り組み」や実際の農産品、農家の手仕事から生み出された伝統工芸品などを展示しました。そして「太素の水プロジェクト」一本木沢ビオトープ協議会、稲生川せせらぎ活動委員会、Kyosokyodo（共創郷土）の最近の活動と、「太素の水」関係団体各位ならびに観光、教育、健康に関わる団体各位、市民有志の連携、協力によりKyosokyodo（共創郷土）が作成した「未来遺産十和田・稲生川ウォーキングマップ」を展示しました。“農業用水・稲生川”を中心に地域の歴史、自然、文化は様々に絡み合いながら調和し、十和田市の田園風景が形作られています。マップを手に地域を歩き、地域文化の基盤である「農業」の雄大な力に私たちの暮らしが包み込まれていることを実際に感じていただければ幸いです。更に現在全国各地で地域づくりに取り組む方々や専門家、有識者約100名で構成される「地・宝・人ネット」では毎月テーマを決めてネット上に意見提言集を掲載しており、４月は「地域の農業が発展するには」がテーマでした。当館ボランティア Kyosokyodo（共創郷土）が今年はじめ共同通信社と、連携する地方紙46紙が選ぶ「地域再生大賞」で優秀賞を頂き、同ネットのメンバーとなって、十和田市からの情報発信・交流を行っています。地域農業の今日的問題解決のための具体的取り組みを考えるのに役立つ情報が数多くあると思いますので、ぜひ一度ご覧ください。（地・宝・人ネット www.47news.jp/localnews/tiikisaisei/）

■個人協力（順不同）沢口麒三夫氏／小笠原カオル氏／竹ケ原トミ氏／赤城ミチ氏　■団体協力（敬称略・順不同）十和田市農林部とわだ産品販売戦略課「とわだ米粉ROADプロジェクト」「おいしい十和田キッズソムリエ」／ＪＡ十和田おいらせ／道の駅とわだ・とわだぴあ／㈱パワフルジャパン十和田／㈱十和田NPO子どもセンター・ハピたの／丸井精米工場／十和田バラ焼きゼミナール／十和田乗馬倶楽部／十和田市きみがらスリッパ生産組合／十和田むらさき保存研究会／南部裂織保存会／晴山獅子舞保存会／十和田ふるさとガイドネットワーク／一本木沢ビオトープ協議会／稲生川せせらぎ活動委員会／Kyosokyodo共創郷土／「太素の水」保全と活用連合協議会ほか関係各位

※ご紹介した取り組みは、時間的な制限やこちらの認識不足で、稲作、畑作中心にごく一部に留まっているものと存じます。ご紹介すべき農業活性化の取り組みがありましたら、展示期間中いつでも結構ですので、お知らせいただければ幸いです。今後も継続してお伝えしていきたいと思います。

太素の水プロジェクト　稲生川ウォーキングマップができました！

平成24年度元気な十和田市づくり市民活動支援事業により、共創郷土（Kyosokyodo）が稲生川ウォーキングマップを作成しました。また「太素の水」保全と活用連合協議会は、「太素の水プロジェクトサイト」を市民の手で更新し、よりよい運用を考えてマニュアルにまとめました。

稲生川全体のウォーキングマップ→
５つのモデルコースの詳細マップ↓

５つのモデルコース（①開拓ゆかりコース　19.4km　②先人の技術みどころコース　7.7km　③せせらぎ満喫コース　6.4km　④まちなか歴史コース　4.3km　⑤ビオトープコース　1.4km）について見学ポイント、所要時間、歩数などを示し、自然体験、郷土学習、健康づくりに役立つ内容となっています。また、マップは Kyosokyodo共創郷土サイト、太素の水サイト、記念館サイトなどでダウンロードできますのでご活用下さい。

（マップについてお問い合わせは Kyosokyodo共創郷土 事務局 0176-23-4430 新渡戸記念館内 ホームページ kyosokyodo.jp）

太素の水プロジェクト　今後のスケジュール

※予定は変更の場合がありますので各団体事務局にご確認下さい

一本木沢ビオトープ協議会 主催『親自然体験』
■7月20日(土)　ナイトハイクホタル観察会
■9月21日(土)　トンボ観察会
■9月28日(土)　バードウォッチング
一本木沢ビオトープ協議会事務局:十和田市東公民館 TEL0176-24-9000 FAX24-9003

稲生川せせらぎ活動委員会 主催『稲生川美化&交流活動』
■稲生川ふれあい公園・せせらぎ水路植栽活動(およそ月1回)
■8月24日(土)　稲生川ふれあい祭り
稲生川せせらぎ活動委員会事務局:水土里ネット稲生川 TEL0176-23-5066 FAX23-3940

Kyosokyodo(共創郷土) 協力「新渡戸塾」
Kyosokyodo事務局:新渡戸記念館　TEL・FAX0176-23-4430

「太素の水」保全と活用連合協議会　事務局
十和田市立新渡戸記念館 TEL・FAX0176-23-4430
https://sites.google.com/site/towadamirai/

未来遺産運動

mini NEWS

資料の寄贈

・関根正男様(東京都)　ペルシャ語版「武士道」[Mohammad Naghizadeh & Manouchehr Monem訳 2010年 Enteshar Publication Co.(イラン)刊]　1点
・米田魁様(十和田市)　稲生大権現囃子方衣装　一式
・古賀茉貴雄様(北海道)　太素塚境内の池へ錦鯉10匹
・原田龍松(圭二)様(青森市)　上海・王邦文氏揮毫「新渡戸家三代を顕章す」額　1点
・盛田昭治様(十和田市)　新渡戸稲造三徳掛軸　1点

太素塚清掃奉仕

・5月6日(月) さわやかクラブ様
・5月7日(火) 十和田市老人クラブ大学通り老成会様

ありがとうございました

関連情報

▶デーリー東北リレー連載“私見創見”に当館ボランティアKyosokyodo(共創郷土)新渡戸富恵会長が寄稿

2013年1月から始まったリレー連載です。これまでの寄稿記事掲載日とタイトルは次の通りです。
2月4日(月)「テロの時代に思う～異なる価値観認めよう～」
3月11日(月)「震災と文化遺産～復興支える文化財救出～」
4月22日(月)「共創の理念～今こそ縄文から学ぼう～」
5月27日(月)「未来遺産の意義～自然と精神を次代に引き継ぐ～」

▶新渡戸稲造の著書「BUSHIDO」を紹介する書籍が続々と刊行されています

『洋泉社MOOK―入門武士道―』(2013年3月/㈱洋泉社)は、世界に「日本的道徳観」を知らしめたベストセラー・新渡戸稲造の『BUSHIDO』を解説、『男の隠れ家』(2013年5月号/㈱プラネットライツ刊)でも「知っておくべき、日本精神の真髄『武士道』とは何か?」と題し特集が組まれました。さらに子ども向け書籍では「ビジュアル・侍図鑑④武士道とは」(2013年3月/㈱ベースボール・マガジン社刊)で昔の侍の文化紹介とともに、「武士道ってなに?」と題して武士道の始まりから新渡戸稲造による武士道の発展まで、歴史を分かりやすく紹介されています。各誌へ当館所蔵資料・写真を提供協力しています。

平成25年度 新渡戸記念館スケジュール

新渡戸塾

こども講座 寺子屋稲生塾　十和田市教育委員会 共催
Kyosokyodo(共創郷土)協力

講座の詳細は市広報か新渡戸記念館ホームページで www.towada.or.jp/nitobe

全体テーマ　十和田市の農業の未来

■展示・イベント
5月　「太素祭クイズ大会 ―太素行列の謎を追え―」
4～6月「太素行列の歴史」ミニ展
5～6月「未来遺産十和田ふるさと見本市 ―文化の礎・農業―」
9～12月「農は貴し」展

■講演・体験・交流プログラム
【一 般】講座Ⅰ 三本木原開拓と農業本論に学ぶ 9月～12月
講座Ⅱ 十和田市の農業を考える 10月～平成26年3月
実践プロジェクト「新渡戸記念館展示ワークシートづくり」
「農業ワークショップ」
「とわだ時空調査隊」

【こども】「稲生塾」6月22日(土)武士道講話　7月6日(土)行灯まつり
7月27日(土)お話し会　8月3日・4日(土・日)まち探検
11月9日(土)世界と友だち　11月30日(土)書道・茶道

稲生塾卒業生の参加も大歓迎!

【稲生塾の申し込み】
★プログラムの対象:小学校4～6年生　★定員:40名　★締め切り:6月18日(火)
★申し込み先:学校の先生へ申し込み―教育委員会スポーツ・生涯学習課(TEL72-2313 FAX72-3123)
本人(保護者)が直接申し込み―十和田市立新渡戸記念館(TEL・FAX23-4430)

▶日野原重明先生原案のミュージカル「葉っぱの四季フレディ」をNPO法人キャトル・リーフが十和田市で公演

医療従事者を中心としたボランティアでミュージカル公演など行うNPO法人キャトル・リーフ(中村明澄理事長、堤円香理事長)の音楽劇「葉っぱの四季フレディ」が2013年4月21日(日)市民文化センターで上演されました。館長が会長を務める市立中央病院芸術ボランティア・アルタノヴァと十和田地域緩和ケア支援ネットワークの主催、市、中央病院、市教育委員会の後援で無料開催し、923人が来場しました。名作絵本「葉っぱのフレディ」を原作に日野原重明聖路加国際病院理事長の原案、同法人田中由紀子理事(佐井村出身)の脚色、演出で、命の意味を歌と音楽で問いかけ、感動の舞台を創りあげました。

活動報告

▶平成25年度第1回太素顕彰会定期総会を開催

2013年4月26日(金)11:00から、平成25年度第1回太素顕彰会定期総会を十和田商工会議所5階会議室で開催し、今年度事業計画を審議の上原案通り可決しました。

▶館長講演会

2013年2月21日(木)五戸町民大学講座(五戸町立公民館)において「未来を切り拓く力」と題し、未来を創造するために大切な先人の教えについて講演しました。

▶音楽学博士・音楽評論家として館長が活躍

日本ピアノ研究会主催、2013年2月9日(土)～10日(日)第4回全日本ジュニアピアノコンクール及びピアノオーディション本選会(杉並公会堂・小ホール)で審査員を務めました。また、『音楽現代』3月号(2013年2月15日発売)特別企画『ウラディミール・ホロヴィッツ～生誕110年、奇才の知られざる側面』に「ホロヴィッツの名演を聴く～メンデルスゾーン、シューマンの小曲に美が投影されているホロヴィッツの演奏」と題して執筆しました。

編集後記　先日、5年に一度の太素行列に、南部利剛公(小山田久十和田市長)の案内役の新渡戸十次郎に扮して市内を練り歩いた。十次郎の本名は常訓。私も字こそ異なるものの、名前が常憲。当時の行列はどうであったのか?また、現世に十次郎が居たとして、彼ならどういった治世を考えるであろうか?と、あれやこれや考えた。ところで、その息子・稲造は、かつて三陸大津波の被災地に向けてこんな言葉を贈り被災者を元気づけている。「Union is Power」団結は力なり。それにしてもどうして我々は歴史に学ばないのであろうか。時として自然の猛威にはかなわないことだってあるのも事実。様々な問題が山積する現代社会において、人の揚げ足取りするよりも我々に必要なことがあろう。人間同士、お互いの価値を認め合うこと。それは更に規模の大きい国家間でも成立する。　(館長 新渡戸常憲)

■ご利用案内
・開館時間:午前9:00～午後4:00
・休 館 日:毎週月曜日(祝祭日は開館) 年末年始(12/29～1/3)
・観 覧 料:大学生・一般210円(団体178円)
小・中・高校生52円(団体42円) ※ 団体は20名以上
十和田市民は観覧料が無料となっています

世界に通ずる私たちのローカル記念館を目指して
十和田市立 新渡戸記念館
Nitobe Memorial Museum
URL　www.towada.or.jp/nitobe/

発行日　2013年6月1日
編集・発行　太素顕彰会・十和田市立新渡戸記念館
〒034-0031　青森県十和田市東三番町24-1
Tel & Fax:0176-23-4430
Email:nitobemm@hi-net.ne.jp
印刷　株式会社 岩間印刷